

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	滋賀大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シガダイガク
	大学等名2(連携大学等)	長浜バイオ大学、滋賀県立大学、聖泉大学、京都産業大学、京都府立大学、京都外国語大学、京都文教大学、京都ノートルダム女子大学、花園大学、奈良女子大学、奈良県立大学、奈良佐保短期大学、天理大学
	科目名	プロジェクト科目「社風発見インターンシップ2016年 春期」
	学部・研究科等名	経済学部
	担当教職員名・役職	特任准教授 柴田雅美
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	7
	受入企業等数	48
	受入企業等名	(株)エルハウジング 他47社(社風全体)
	インターンシップの分類	4.他県をまたぐ広域インターンシップ 5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 7.中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事務業務、営業同行、店舗実習(接客業務)、企画立案ワークショップ、社員インタビュー等を行っている。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している。8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次・2年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	低年次生(1年次~2年次生)を対象に、春期休業期間中、3日~5日間のインターンシップおよび3日間の事前・事後学習を組み合わせ、「プロジェクト科目」の1科目として実施している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている。2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全2回の事前学習の中でインターンシップの趣旨や目的の理解、企業研究やビジネスマナー研修を実施(第1回)するとともに、インターンシップ受入企業担当者と学生とで、インターンシップの目的のすり合わせを行う場を設けている(第1回)。また、インターンシップ中の目標を設定するために、グループワークおよび発表会を実施(第2回)している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習の中で事前に設定した目標と実際の就業体験での学びがどのようにつながったのか、また実習先企業の社風がどのようなものであったかをグループで共有・比較し合い、企業担当者を招いた学生発表会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学等の教職員がインターンシップ期間中に企業を訪問し、企業担当者および学生と面談を行っている。企業担当者からは、学生に対するヒアリング(改善点、問題点、良い点等)および大学に対する要望等をヒアリングしている。また、学生は可能な範囲で面談を行い、実習での学びや目標に対する状況確認を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている。2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	経済産業省が提唱している社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの能力)について問う、自己評価形式のシートを事前・事後学習で実施し、インターンシップを通じてそれぞれの力がどれほど向上したか等、教育的効果を測定している。

要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間7～9日間(うちインターンシップ実施期間3日間～5日間)※インターンシップの他に、「事前訪問」もプログラムに組み込んでいる。
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄) 5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本インターンシップは、基本的に実習期間3日間～5日間にて実施している。例えば、実習期間が3日間の企業では3日間実習を行い、それに「事前訪問」、「事前学習1日目」、「事前学習2日目」、「事後学習」をそれぞれ合せて、計7日間～9日間のプログラムとして実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業開拓の段階でインターンシップの意義や本インターンシップの目的を企業に理解いただいたうえで、プログラムの設計段階から参画いただいている。また、事前学習内およびインターンシップ実施期間中に受入企業担当者と大学教職員との面談の場を設け、受入に係るニーズ把握や大学に対する要望等のヒアリングに努めている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://www.econ.shiga-u.ac.jp/community/28/4/72.html">https://www.econ.shiga-u.ac.jp/community/28/4/72.html</a>
問い合わせ先	大学等名	滋賀大学
	担当部署名	地域連携教育推進室
	担当者役職名	特任准教授
	担当者氏名	柴田雅美
	電話番号	0749-27-1348
	メールアドレス	fukugan@biwako.shiga-u.ac.jp